

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第23週（6月1日～6月7日）

## 今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

### 定点把握感染症

「咽頭結膜熱、手足口病 増加」

第23週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,015例であり、前週比4.0%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、手足口病、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.55、2.40、1.07、0.84、0.36である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比4%減の1,005例で、南河内10.40、北河内8.55、中河内6.53、大阪市南部6.24、大阪市西部5.50であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は17%減の435例で、北河内5.36、中河内3.32、南河内2.93である。

咽頭結膜熱は12%増の193例で、中河内2.47、北河内1.95、南河内1.80であった。

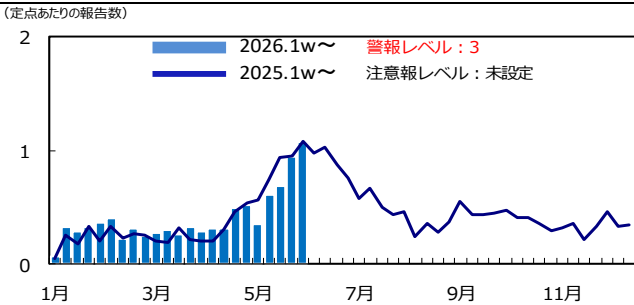
手足口病は85%増の152例で、堺市1.71、南河内1.40、北河内1.18である。

RSウイルス感染症は1%減の66例で、南河内0.93、大阪市北部0.54、中河内0.53であった。

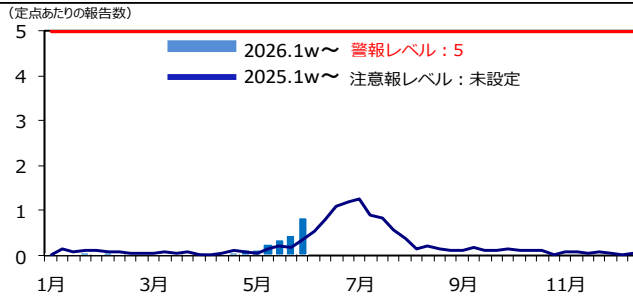
新型コロナウイルス感染症は32%増の108例で、定点あたり報告数は0.38である。泉州0.79、北河内0.64、中河内0.52、大阪市南部0.35、南河内・大阪市北部0.30であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は3%増の8,763例で、定点あたり報告数は30.75である。南河内45.52、北河内39.11、中河内37.24、大阪市北部31.75、泉州30.97であった。

咽頭結膜熱



手足口病



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第23週6月1日～6月7日）

第23週の順位	第22週の順位	感染症	2026年 第23週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第23週の 定点あたり 報告数	2026年第23週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	5.55	4%減	6.79	1歳_18%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.40	17%減	2.22	10-14歳_17%
3	3	咽頭結膜熱	1.07	12%増	1.08	1歳_38%
4	4	手足口病	0.84	85%増	0.33	1歳_53%
5	7	RSウイルス感染症	0.36	1%減	0.22	1歳_42%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.38	32%増	0.90	10-19歳_27%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	30.75	2%増	40.12	1-4歳_46%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

## 第23週のコメント

～梅毒～ 大阪府における2025年の梅毒累計報告数は1,712例であった



表2. 大阪府全数報告数(2026年 第23週6月1日～6月7日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
4類感染症	E型肝炎	1								1	3
	オウム病	1			1						1
	レジオネラ症(肺炎型)	2	1							1	51
5類感染症	アメーバ赤痢	1	1								20
	ウイルス性肝炎	1								1	13
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2			1					1	44
	後天性免疫不全症候群	1								1	31
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2								2	25
	侵襲性肺炎球菌感染症	5			1	1			1	2	139
	水痘(入院例)	1							1		32
	多剤耐性緑膿菌感染症	1	1								17
	梅毒	27	1	1		2			4	19	549
	百日咳	1								1	156
結核 (2026年4月分)	結核 新登録患者数：36名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 9名) (府内累積報告数 290名、内 肺・喀痰塗抹陽性 93名)										

(2026年6月9日 集計分)